作成:更新日 2024年6月28日

	- 7 3/12 (2		עוד כמוינו) ו							
事業名	高齢者処	火災警報 器	器給付事業	実施計画事業or一般事業	—f	投事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
				施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし
L. 基本情						0 -1				/n
	部	健康医療部		予算中事業名		会計		事業計画	単年度組織	
	課 係	いきいき高齢 高齢福祉係	en:	高齢者火災警報器給付事業		<u>款</u> 項	3 1	新規or継続 市単独or国県補助	継続 市単独	
	<u>徐</u> 体系コード	同断伸性活		根拠法令、条例等	科目	目	_	義務or任意	任意的	
	基本目標		健やかで元気に暮らせるまちづくり	似地位以来的专	事業	開始年度		実施方法	直	
攺策体系	政策		助け合い生きがいを実感できるまちづくり	佐野市高齢者火災警報器給		終了年度	1117	事業分類	支援	
	施策		豊かで健やかな長寿社会の実現	付事業実施要綱	MILL	心了十次		于未刀炽	又]友	尹未
(1)事業	美概要 在宅の低所	行得者の要介	画期間内)目標値 護高齢者及び一人暮らしの高齢者に対し、 示い、決定通知・事業依頼通知を送付し、		- る。				_	
(2)目的				(3)目標値						
(2) = 0	י			効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
目的				住宅用火災警報器の設置率等	<u>∓™</u>	80	80	_	80	
(ナーチャル)			して火災警報器を給付することにより、高齢	上 5/11/八三代間の成色十寸	70		- 00			
		安全を確保し	.、もって福祉の増進を図ることを目的とす							
遂げたい 状態)	る。									
177.67										
3.前年度 (1)活動		舌動及び費用	3対効果)説明	(2)活動を説明する数値デ	ータ及ひ	事業費の抽	推移			
				活動指標	単位	R3	R4	R5		
				火災警報設置数	世帯	0	3	6		
うった主な活										
	经付申 慧/	动 中語支	その白字内寝安に小災勢起哭を恐罵							
	給付申請に対し、申請者の自宅内寝室に火災警報器を設置			事業費計	千円	0	51	53		
動内容)				一般財源	千円	0	51	53		
						0	31	33		
				特定財源(国·県·他)	千円					
				(うち受益者負担)	千円					
(3)活動	かによる効果			(4) 事業効果を説明する数	値データ	の推移			↓選択して	下さい
(3) /山並	1100 079371			効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	
				住宅用火災警報器の設置率等	%	78	78	_	値が大きいほど良い	効果は変わらない
効果説明	佐野市管内	での設置率	が横ばいとなっている。							
(定量及び 定性)	※総務省	住宅用火災	警報器の設置率等の調査結果							
ƌ)										
(5)費用	対効果結果	果(自動判定	₹)							
	とR4の一般		費用の増減無し	※10万円以上の増減により判断				効果		
効果	効果が上が	った指標数	0指標				効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった	
メリス (R5とR4の	効果は変わり効果が下が				費	費用は下がった				
、 旨標値増減)	<u> хижи ги</u>	指標全体			用	費用が増加した				
(1)令和		三業実施にお にお	ける反省点、環境変化や関係者からの意見 010年以上経過しており、給付台数も年間			_		がある 。		
(2) 上記	己反省点及び	が課題を踏ま	えた、令和6年度及び令和7年度の取組	取組説明						
	事業効果を 事業費の見 業務時間效	上げるための !直し検討 か率化のための	:、休止、再編成、受益者負担の見直しなど) 事務改善の検討 D事務改善の検討 伏維持又は現状の計画通り)	事業廃止も含め、事業の在りが	を検討	 する。				

1 豊かで健やかな長寿社会の実現

事業名 高齢者福祉タクシー運賃助成事業 実施計画事業or一般事業 一般事業 市長公約 該当なし 総合戦略 該当施策横断的な取組との関連性 SDGs 該当なし コンパクトシティ 該当あり スマートシティ 該当										
施策横断的な取組との関連性 SDGs 該当なし コンパクトシティ 該当あり スマートシティ 該当	事業名 高齢者福祉タクシー運賃助成事業									
1. 基本情報										
部はは、関係の関係では、関係では、関係では、関係では、関係では、関係では、関係では、関係では、	担当組織									
担当組織 課 いきいき高齢課 高齢者福祉タクシー運賃助成 予算 款 3 新規or継続 継続事業										
「「「「「」」」」 「「」」 「「」」 「「」」 「「」」 「「」」 「「										
体系コード 331 名称 根拠法令、条例等 目 3 _{義務or任意} 任意的事業										
政策体系 基本目標 3 健やかで元気に暮らせるまちづくり 佐野市高齢者福祉タクシー運 事業 開始年度 平成3年 実施方法 一部委託	旧的东体系									
政策 3 助け合い生きがいを実感できるまちづくり 質別の実施要綱 期間 終了年度 - 事業分類 現金等給付事										

(3)目標値

2. 事業概要と目的及び(基本計画期間内)目標値

(1) 事業概要

高齢者が日常生活において必要とされる通院、市内の買物、公共施設、金融機関等でタクシーの利用する際の運賃の一部を助成する。

(2)目的

目的

(本事業に

よって成し

遂げたい

状態)

活動実 (R5年) 行った主 動内容

事業概要

75歳以上の高齢者と70歳以上で一人暮らし又は高齢者の世帯 の方がタクシーを利用して医療機関等に移動する場合、料金の助 成を行い、移動に対する利便性を向上させることにより、健康維持と

効果指標 単位 R3 R4 R5 R6 R7 利用者証交付人数 909 961 950 1,000 人 812 タクシー料金助成件数 件 38,631 41,258 42,365 43,000 43,500

3. 前年度の実績(活動及び費用対効果)説明

自立した生活を支援する。

(1)活動実績

(2)活動を説明する数値データ及び事業費の推移

		活動指標	単位	R3	R4	R5
		利用者証交付人数	人	909	812	961
F度に	75歳以上の高齢者と70歳以上で一人暮らし又は高齢者世帯の方がタクシーを利用して医療機関や市内の公共施設、商業施設、金融機関等に行く際の料金の一部を助成した。	タクシー料金助成件数	件	38,631	41,258	42,365
		事業費計	千円	20,521	22,254	23,954
台)		一般財源	千円	20,521	22,254	23,954
		特定財源(国·県·他)	千円			
		(うち受益者負担)	千円			

(3)活動による効果

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

選択して下さい

	効果指標	単位	R3	K4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
令和3年度から助成券廃止し、後期高齢者医療保険者証又は助	利用者証交付人数	人	909	812	961	値が大きいほど良い	効果が上がった
成利用者証の提示により助成回数を無制限とした他、利用用途を	タクシー料金助成件数	件	38,631	41,258	42,365	値が大きいほど良い	効果が上がった
通院以外に公共施設、金融機関等の利用を可能としたことで、							
年々交付人数と助成件数が増加した。							
	成利用者証の提示により助成回数を無制限とした他、利用用途を 通院以外に公共施設、金融機関等の利用を可能としたことで、	令和3年度から助成券廃止し、後期高齢者医療保険者証又は助成利用者証の提示により助成回数を無制限とした他、利用用途を通院以外に公共施設、金融機関等の利用を可能としたことで、	令和3年度から助成券廃止し、後期高齢者医療保険者証又は助成利用者証の提示により助成回数を無制限とした他、利用用途を通院以外に公共施設、金融機関等の利用を可能としたことで、	令和3年度から助成券廃止し、後期高齢者医療保険者証又は助成利用者証の提示により助成回数を無制限とした他、利用用途を増加した。	令和3年度から助成券廃止し、後期高齢者医療保険者証又は助成利用者証の提示により助成回数を無制限とした他、利用用途を通院以外に公共施設、金融機関等の利用を可能としたことで、 利用者証交付人数 人 909 812 97シー料金助成件数 件 38,631 41,258 41,288 41,258 41,2	令和3年度から助成券廃止し、後期高齢者医療保険者証又は助成利用者証の提示により助成回数を無制限とした他、利用用途を通院以外に公共施設、金融機関等の利用を可能としたことで、利用者証交付人数人90981296142,365	令和3年度から助成券廃止し、後期高齢者医療保険者証又は助成利用者証の提示により助成回数を無制限とした他、利用用途を通院以外に公共施設、金融機関等の利用を可能としたことで、

(5)費用対効果結果(自動判定)

費用(R5	とR4の一般財源増減)	費用が増加した
効果	効果が上がった指標数	2指標
	効果は変わらない指標数	0指標
(R5とR4の	効果が下がった指標数	0指標
指標值増減)	指標全体	効果が上がった

※10万円以上の増減により判断

			効果	
		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費	費用は下がった			
	費用の増減無し			
用	費用が増加した	\circ		

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

令和3年度から、3割助成により利用回数無制限として、通院以外の利用を可能として、高齢者の移動手段の拡充を行ってきた。引き続き利用用途の拡大や助成額の増額な どの検討が必要である。保険証のマイナンバーカードへの移行に伴い、後期高齢者医療被保険者証が発行されなくなることから、75歳以上の方も助成を受ける際、利用者証が 必要になることを周知し、必要な方へ申請を促す。

(2)	上記反省占及び課題を踏まえた。	会和6年度及び会和7年	度の取組

	事業の在り方検討(廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど)
V	事業効果を上げるための事務改善の検討
	事業費の見直し検討
	W/ = = = + = = 1

□ 業務時間効率化のための事務改善の検討

□ 特に検討事項無し(現状維持又は現状の計画通り)

取組説明

今年度は保険証がマイナ保険証に移行するため、保険証が発行されなくなる。それに伴い、75 歳以上の方へ利用者証申請について周知し、申請を促す。また、助成割合や助成上限額の 見直しを検討する。

古光之	=	/ 7 =**	翠市 #	rh.⊬=1= ₩	l	40. = 444	+50%	=+11111	44) Q W" = 1	=+\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\
事業名	老人不一	ム入所措	直手 兼	実施計画事業or一般事業 施策横断的な取組との関連性		・般事業 該当なし	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
1. 基本情	事 報			心中側凹がは以組との関連性	SDUS		コンパクトシティ	該当なし スマートシテ		炎山なり
21 (25-4-1)	部	健康医療部	3	予算中事業名		会計	一般	事業計画	単年度組	繰り返し
担当組織	課	いきいき高歯		老人ホーム入所措置事業	予算	款	3	新規or継続	継続	
	係	高齢福祉係			科目	項	1		市単独	
	体系コード			根拠法令、条例等	= MK	目		義務or任意	義務的	
政策体系	基本目標		健やかで元気に暮らせるまちづくり	老人福祉法・老人福祉法施			昭和38年		一部	
	政策 施策		助け合い生きがいを実感できるまちづくり 豊かで健やかな長寿社会の実現	│ 行細則、老人ホーム入所判 │ 定実施要項	期间	終了年度	-	事業分類	支援	争美
2. 事業 机 (1)事業 事業概要	美概要		計画期間内)目標値 なび経済的理由により居宅での生活が困難な	な方を養護老人ホームへ入所指	昔置する	•				
(2) ⊟#				(2) 日堙店						
(2)目的	ע			(3)目標値 効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
目的				入所を必要とする人の人数		37			37	37
(本事業に	6 5 歳以」	上で環境上及	び経済的理由により居宅で生活が困難な		人	37.0	36.0	37.0	37.0	37.0
よって成し		養護老人ホームへ入所措置し、安心した生活を送ってもらう。		7 (7)(0)(0) (3)(0)	/\	57.10	30.0	37.10	37.0	57.0
遂げたい 状態)										
3.前年 B (1)活動		舌動及び費用	用対効果)説明	(2)活動を説明する数値デ	ータ及び	グ事業費の推和	多			
				活動指標	単位	R3	R4	R5		
				養護老人ホーム措置入所者	人	37	36	37		
									1	
活動実績市民からの相談等により65歳以上で環境								ļ		
テった主な活 老	より居宅で養護を受けられない者を入所判定委員会に諮り、養護 老人ホームへの入所措置を行った。また、入所者の現況把握を行う									
				事業費計	千円	106,553	93,863	103,070	1	
±01 1L1/	ため施設を訪問し、面談を行った。			一般財源	千円	94,715	84,775	91,838		
				特定財源(国·県·他)	千円	11,838	9,088	11,232		
				(うち受益者負担)	千円	,	,	,	İ	
]	
(3)活動	かによる効果	:		(4)事業効果を説明する数			D.4	DE	↓選択して	
	マの車業を	ア 理培	上及び経済的理由により居宅で養護が受	効果指標 入所を必要とする人の人数	単位	R3	R4	R5 37	指標の性質 値が大きいほど良い	R4とR5の比較 効果が上がった
効果説明			主人ホームへ入所措置することは、施設で		人	37 37.0			値が大きいほど良い	効果が上がった
(定量及び			いした生活を送ることができ、目的は達成さ	7 (THOTE) (V) QX	_^	37.0	30.0	37.0		//////////////////////////////////////
定性)		果等は図れな								
(5)費用	- 対効果結!	果(自動判)	 							
	とR4の一般		費用が増加した	※10万円以上の増減により判断				効果		
効果	効果が上が		2指標			I *** co = . * .	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった	
(R5とR4の	効果は変わり効果が下が	らない指標数_ 「った指標数	0指標 0指標		費	費用は下がった費用の増減無し				
指標値増減)	77321073 1 73	指標全体	効果が上がった		用	費用が増加した	0			
	きに向けた検 15年度の事		ける反省点、環境変化や関係者からの意見	見等を踏まえた検討課題、費用	対効果	向上のための記	果題			
			れる高齢者への措置は適切に行われている るとおり実施しなくてはならないため、費用対							
(2)上記	記反省点及び	グ課題を踏ま	えた、令和6年度及び令和7年度の取組	取組説明	<u>L</u> _					
	事業効果を 事業費の見 業務時間效	を上げるための 見直し検討 効率化のため	に、休止、再編成、受益者負担の見直しなど) 事務改善の検討 の事務改善の検討 状維持又は現状の計画通り)	現状維持。引き続き、相談に対	付して適	切な措置を行	っていく。			

1 豊かで健やかな長寿社会の実現

事業名 デイサービスセンター運営事業		実施計画事業or一般事業	一般事業		市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし		
				施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし
1. 基本情報										
	部	健康医療部		予算中事業名		会計	一般	事業計画	単年度網	繰り返し
担当組織	課	いきいき高齢	課	 デイサービスセンター運営事業	予算	款	3	新規or継続	継続	事業
	係	高齢福祉係		ナイリーにスピンダー連呂事業	科目	項	1	市単独or国県補助	市単独	事業
	体系コード	331	名称	根拠法令、条例等		目	3	義務or任意	義務的	事業
政策体系	基本目標	3	健やかで元気に暮らせるまちづくり		事業	開始年度	平成6年	実施方法	直	営
	政策	3	助け合い生きがいを実感できるまちづくり	佐野市デイサービスセンター条例	期間	終了年度		事業分類	施設維持	管理事業

2. 事業概要と目的及び(基本計画期間内)目標値

(1)事業概要

|安定した介護サービス供給基盤を確保し、高齢者福祉の増進を図るため設置されたデイサービスセンターの管理を行う。

事業概要

- ・遠原の里デイサービスセンター
- ・葛生あくとデイサービスセンター
- ・元石塚デイサードスセンター

(2)目的

(3)目標値

		効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
目的		要介護認定者数	人	6,550	6,550	6,550	6,550	6,550
(本事業に	介護認定を受けた高齢者が給食や入浴サービスを受け、在宅で自	デイサービスセンター利用者数	人	1,090	1,140	1,190	1,240	1,290
よって成し 遂げたい	立した生活を送る。							
逐りたい 状態)								
DVIB()								

3. 前年度の実績(活動及び費用対効果)説明

(1)活動実績

(2)活動を説明する数値データ及び事業費の推移

		活動指標	単位	R3	R4	R5
活動実績 (R5年度に 行った主な活 動内容)	安定した介護サービス供給基盤を確保し、高齢者福祉の増進を図	デイサービスセンター利用者数	人	1,087	1,137	1,031
		デイサービスセンター利用回数		9,409	9,790	9,678
		要介護認定者のうちデイを利用した人の割合	%	16.7	17.5	15.4
		事業費計	千円	222	1,172	41
		一般財源	千円	222	1,172	41
		特定財源(国·県·他)	千円	0	0	0
		(うち受益者負担)	千円	0	0	0

(3)活動による効果

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

		効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		要介護認定者数	人	6,508	6,510	6,689	値が小さいほど良い	効果が下がった
		デイサービスセンター利用者数	人	1,087	1,137	1,031	値が小さいほど良い	効果が上がった
•							値が小さいほど良い	
足江)							値が小さいほど良い	

(5)費用対効果結果(自動判定)

費用(R5	とR4の一般財源増減)	費用は下がった
効果	効果が上がった指標数	1指標
	効果は変わらない指標数	0指標
	効果が下がった指標数	1指標
指標值増減)	指標全体	効果は変わらない

※10万円以上の増減により判断

			効果	
		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費	費用は下がった		\circ	
	費用の増減無し			
用	費用が増加した			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

施設を維持するための修繕が主な事業内容であるが、令和5年度は修繕依頼がなかった。令和6年度は指定管理者と連絡を密にし、施設の休止等がないように修繕が必要な場合は早急に対応をしてい、 令和6年度は元石塚デイサービスの廃棄物品の処分を行う。

高齢者の増加に伴い、要介護認定者数も増加している。市直営のデイサービスセンターはすでに4箇所廃止になるなど、単独のデイサービスセンターの需要は減少傾向にある。

(2)	上記反省点及び課題を踏まえた、	今和6年度及び今和7	年度の取织
(Z)	上記以自以及い誄越を始まんに、	カ州0年浸及いカ州/	干浸の採組

	事業の在り方検討(廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど)
	事業効果を上げるための事務改善の検討
	事業費の見直し検討
	業務時間効率化のための事務改善の検討
✓	特に検討事項無し (現状維持又は現状の計画通り)

現状、デイサービスセンターを利用している要介護者は快適なサービスを受けられている。 本事業は施設維持・修繕するための事業であるため、費用対効果向上の余地はなく、現状の 計画通り実施する。 名称

3|健やかで元気に暮らせるまちづくり

1 豊かで健やかな長寿社会の実現

3 助け合い生きがいを実感できるまちづくり

任意的事業

現金等給付事業

部委託

義務or任意

実施方法

事業分類

事業名	高齢者は	けいきゅう・マッサージ等施術支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業		市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
•	•		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし
1. 基本作	青報								
	部	健康医療部	予算中事業名		会計	一般	事業計画	単年度	繰り返し
担当組織	課	いきいき高齢課	高齢者はり・きゅう・マッサージ	予算	款	3	新規or継続	継続	事業
	係	高齢福祉係	等施術支援事業	科目	項	1	市単独or国県補助	市単独	中業

2. 事業概要と目的及び(基本計画期間内)目標値

(1) 事業概要

体系コード

基本目標

政策

施策

事業概要

政策体系

高齢者が保険適用外のはり、きゅう、マッサージ及び指圧の施術を受ける場合に、その料金の一部を助成することにより、高齢者の健康の保持と福祉の向上を図る ことを目的とする。

根拠法令、条例等

佐野市高齢者はり・きゅう・マッ

サージ費助成事業実施要綱

目

期間終了年度

事業

開始年度 平成2年

(2)目的

(3)目標値

		効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
目的		交付枚数	枚	3,300	3,600	3,900	4,200	4,500
(本事	選集にはり・きゅう・マッサージ療法を利用し、健康的で自立した生活を送れるようにする。 ならにする。	. 利用枚数	枚	1,100	1,200	1,300	1,400	1,500
よつ ():								
状態								

3. 前年度の実績(活動及び費用対効果)説明

(1)活動実績

(2)活動を説明する数値データ及び事業費の推移

(1)/113			///	于未只约	H 17	
		活動指標	単位	R3	R4	R5
		70歳以上の高齢者数	人	27,790	28,116	28,400
	交付枚数	枚	3,750	3,558	3,690	
活動美領 (R5年度に	活動実績 (R 5年度に 7 0 歳以上の方を対象者に、はり、きゅう、マッサージ、指圧の施術 行った主な活 動内容)	利用枚数	枚	1,166	1,227	1,364
		事業費計	千円	1,059	1,183	1,292
±31 1L1/		一般財源	千円	837	925	1,027
		特定財源(国·県·他)	千円	222	258	265
		(うち受益者負担)	千円			

(3)活動による効果

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び 定性) 令和4年度と比較して、交付枚数、利用人数、交付枚数全てにおいて増加した。タクシー、バスも同様に利用が増加していることから、各事業の利用方法の周知が継続して行われてきたからであると考えると同時に、まとめて申請をする方が多かったとも考える。

	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
お	交付枚数	枚	3,750	3,558	3,690	値が大きいほど良い	効果が上がった
ò,	利用枚数	枚	1,166	1,227	1,364	値が大きいほど良い	効果が上がった
言え							

(5)費用対効果結果(自動判定)

費用(R5	とR4の一般財源増減)	費用が増加した
か田	効果が上がった指標数	2指標
効果	効果は変わらない指標数	0指標
(R5とR4の #5##/広場)	効果が下がった指標数	0指標
指標値増減)	指標全体	効果が上がった

※10万円以上の増減により判断

		効果					
		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった			
費	費用は下がった						
	費用の増減無し						
用	費用が増加した	$\overline{}$					

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

高齢者の健康維持を目的として実施し、足腰等の痛みの緩和、軽減をすることで自立した生活ができる。一定の効果がみられる。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

- ☑ 事業の在り方検討 (廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど)
- □ 事業効果を上げるための事務改善の検討
- □ 事業費の見直し検討
- □ 業務時間効率化のための事務改善の検討
- □ 特に検討事項無し(現状維持又は現状の計画通り)

取組説明

現状維持

□ 特に検討事項無し(現状維持又は現状の計画通り)

仕事	の振り	ル区りこ	ノート(令相5年度	美施分)			作	成・更新日	2024年1	l2月13日	
事業名	高齢者タ	卜出支援 事	事業	実施計画事業or一般事業	—,	般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
				施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし	
1. 基本情	青報 部	健康医療部		予算中事業名		会計		事業計画	単年度	品いた」	
	課	は尿医療品			予算	款		尹未司 四 新規or継続		事業	
	係高齢福祉係			高齢者外出支援事業	科目	項	1			<u>于不</u> 虫事業	
	体系コード			根拠法令、条例等		目	3	義務or任意	任意的	事業	
攺策体系	基本目標	3	健やかで元気に暮らせるまちづくり		事業	開始年度	平成8年	実施方法	一部	委託	
以來仲亦	政策	3	助け合い生きがいを実感できるまちづくり		期間	終了年度	-	事業分類	支援	事業	
	施策	1	豊かで健やかな長寿社会の実現								
2. 事業 概 (1)事第		とび(基本計	画期間内)目標値								
事業概要	身体機能の低下や障害等により一般の交通機関を利用することが困難な高齢者を医療機関等への送迎を行うことにより、高齢福祉の向上を図る。										
(2)目的	5			(3)目標値							
				効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7	
目的				利用率	%	40	40		40		
(本事業によって成し	通院の交通	手段を確保	することで、健康を維持し、在宅生活を安	(利用可能者/利用人数)							
遂げたい	心して送れ	るようにする。								ļ	
状態)											
3.前年 度 (1)活動		舌動及び費用	3対効果)説明	(2)活動を説明する数値デ	ータ及し	事業費の持	推移		•		
				活動指標	単位	R3	R4	R5			
	車いすを利用している高齢者及び一般の交通機関の利用が困難な 高齢者が通院する際に、リフト付き福祉車両で送迎を行っている。 委託先:公益社団法人 佐野市シルバー人材センター			利用人数	人	26	27	20			
ハン十反に				利用回数		196	201	126			
				登録者数	人	112	95	71			
テった主な活動内容)				事業費計	千円	6,588	6,345	6,761			
#J/ 1 ' '/				一般財源	千円	6,475	6,232	6,648			
				特定財源(国·県·他)	千円	113	113	113			
				(うち受益者負担)	千円						
				(プラ文無石兵)旦/	111						
(3)活重	かによる効果			(4) 事業効果を説明する数		1		ı	↓選択して		
	白生物公理	AD-0-	+\2 T CD+ 10 D + + \ \ - \ 12 + + B	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質		
効果説明			交通手段を利用できない方にサービスを提 きすることにより高齢者の自立を促すことがで	利用率 (利用可能者/利用人数)	%	34	31	28	値が大きいほど良い	効果が下がった	
(定量及び			可用者が減少傾向にあることから、見直しの								
定性)	余地がある。										
	יש כט כום-אני	•									
(こ) 弗日	日かかり田名士日	果(自動判定	⇒)								
	とR4の一般		費用が増加した	※ 1 0万円以上の増減により判断				効果			
次/13(113 効果	効果が上が	った指標数	0指標	X 1 0/51 35X 11-5 11-4 (60.5) [314]			効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった		
メリ ス (R5とR4の	効果は変わり効果が下が		0指標 1指標		費	費用は下がった					
· 指標值増減)	<u>хлж</u> л	指標全体	効果が下がった		用	費用が増加した			0		
(1) 令和		業実施にお	ける反省点、環境変化や関係者からの意見	2等を踏まえた検討課題、費用対	对効果向	可上のための	課題				
			えた、令和6年度及び令和7年度の取組								
(- / - 1	シスロボス	י ייייארי היידו פיי		取組説明							
	事業効果を 事業費の見	上げるための 直し検討	、休止、再編成、受益者負担の見直しなど) 事務改善の検討	利用者は減少傾向にあり、委託	・	落額のため廃	止等を検討	寸する。			
	業務時間效	刃挙化のための	の事務改善の検討								

1 豊かで健やかな長寿社会の実現

事業名	業名 高齢者緊急通報装置貸与事業		実施計画事業or一般事業	一般事業		市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし			
			施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし			
1. 基本情報												
	部	健康医療部		予算中事業名		会計	一般	事業計画	期間限定	複数年度		
担当組織	課	いきいき高齢	課	高齢者緊急通報装置貸与事	予算	款	3	新規or継続	継続	事業		
	係	高齢福祉係		業	科目	項	1	市単独or国県補助	市単独	事業		
	体系コード	331	名称	根拠法令、条例等		皿	3	義務or任意	任意的	的事業		
以汞体 杀	基本目標	3	健やかで元気に暮らせるまちづくり		事業	開始年度	平成2年	実施方法	一部委託			
	政策	3	助け合い生きがいを実感できるまちづくり	位到 17 同國 日	期間	終了年度	-	事業分類	融資·貸	与事業		
	+		曲シスパルトントニキリへのウロ	貝丁尹未大心女們								

2. 事業概要と目的及び(基本計画期間内)目標値

(1) 事業概要

事業概要

在宅の高齢者に対して緊急通報装置の貸与を行う佐野市高齢者緊急通報装置貸与事業を実施することにより、急病、災害等の緊急時に迅速かつ適切な対応 を図り、高齢者の生活不安を解消させ、人命の安全を確保するとともに、高齢者の福祉の増進を図ることを目的とする。

(3)目標値

(2)目的

目的 (本事業に

よって成し

遂げたい 状態)

緊急の場合に、速やかに消防や近隣住民に連絡が取れることで安 心した生活が送れるようになる。

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
新規貸与者数	人	25	25	25	25	25
総貸与者数	人	160	160	160	160	160

3. 前年度の実績(活動及び費用対効果)説明

(1)活動実績

(2)活動を説明する数値データ及び事業費の推移

		活動指標	単位	R3	R4	R5
		新規貸与者数	人	24	23	24
>ーエ! ナ/+	在宅の65歳以上のひとり暮らし又は高齢者世帯で介護認定にお		人	178	155	157
活動実績 (R5年度に	いて要支援以上の方、もしくは救急搬送を要する疾病がある方に対 し緊急通報装置を貸与し、急病や災害等の緊急時に適切に対応	緊急通報による出動回数		15	22	21
· 行った主な活 動内容)	11. 公司用规头值《自书1、录例2》从表表以公司时,例如,2011	事業費計	千円	2,787	1,317	1,790
到(2)台)		一般財源	千円	2,787	1,317	1,790
		特定財源(国·県·他)	千円			
		(うち受益者負担)	千円			

(3)活動による効果

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

		効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
±1 555 77 85	前年度同様に、在宅の65歳以上のひとり暮らし又は高齢者世帯で	新規貸与者数	人	24	23	24	値が大きいほど良い	効果が上がった
効果説明	要支援以上の方、もしくは救急搬送を要する疾病がある方に対し緊	総貸与者数	人	178	155	157	値が大きいほど良い	効果が上がった
(定量及び 定性)	急通報装置を貸与し、高齢者の生活の不安解消を図ることができ							
	た。							
					·			

(5)費用対効果結果(自動判定)

費用(R5	とR4の一般財源増減)	費用が増加した
効果	効果が上がった指標数	2指標
	効果は変わらない指標数	0指標
(R5とR4の	効果が下がった指標数	0指標
指標值増減)	指標全体	効果が上がった

※10万円以上の増減により判断

取組説明

			効果	
		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費	費用は下がった			
	費用の増減無し			
用	費用が増加した	\cap		

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

本事業利用者は、乳酸飲料愛のひと声事業との併用ができなくしたため利用者は減少したが、高齢者や民生委員に対し周知をしているが、さらに周知を図る必要がある。

(2)	上記反省占及び課題を踏まえた.	会和6年度及び会和7年度の	取組

	事業の在り方検討(廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど)
✓	事業効果を上げるための事務改善の検討
	事業費の見直し検討
	業務時間効率化のための事務改善の検討

利用条件の要支援に該当はしていないが、独居で緊急時に不安を抱えている方も見受けられ
スプトから さらに国知を図る必要がある

□ 特に検討事項無し(現状維持又は現状の計画通り)

作成•更新日 2024年12月13日

= 114	÷ ₩*	マウムシエル	·····································			— —	+ = 0 44		4/) A Wh===	
事業名	高齢者軽度生活援助事業		長助争 美	実施計画事業or一般事業						
L. 基本情	生			施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ	該当なし
	部	健康医療部		予算中事業名		会計	1	事業計画	単年度紀	緑り近し
	課	いきいき高齢			予算			新規or継続	継続	
	係	高齢福祉係		高齢者軽度生活援助事業		項	1	市単独or国県補助	市単独	
	体系コード	331	名称	根拠法令、条例等		目	3	義務or任意	任意的	り事業
改策体系	基本目標	3	健やかで元気に暮らせるまちづくり		事業	開始年度	H14	実施方法	一部	委託
以來体术	政策	3	助け合い生きがいを実感できるまちづくり	近到中局郡石鞋及主冶拔	期間	終了年度		事業分類	現金等約	合付事業
	施策	1	豊かで健やかな長寿社会の実現	助争未大心机机						
2. 事業 概 (1)事第	美概要		画期間内)目標値 定を受けたひとり暮らし又は高齢者世帯に対	対し、介護保険制度の適用外の	庭の除	草等の軽度	なサービス	を行い、在 ⁵	己で の生活 [,]	を援助す
事業概要			長託して実施している。 用料金の一部を援助している。							
(2)目的	þ			(3)目標値						
				効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
目的			な高齢者世帯等に対して軽易な日常生活	利用時間	時間	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850
(本事業に よって成し	の援助を行	うことにより、E	自立した生活の継続を可能にし、並びに健							
遂げたい		欲及び能力の	ある高齢者の就業機会を確保することを							
状態)	目的とする									
3. 前年度 (1)活重		舌動及び費用	3対効果)説明	(2)活動を説明する数値デ	ータ及し	事業費の持	推移		,	
				活動指標	単位	R3	R4	R5		
				利用世帯	世帯	117	141	139		
				دان تا در الا	יווים	117	171	133	1	
壬動宇結	₩									
R5年度に			きる助成券を発行し、要支援1以上の一							
うった主な活			バ高齢者世帯の日常生活の支援を行うこと を援し、自立を促した。	事業費計	千円	1,611	2,121	2,285		
動内容)	により、1エモ	こしの土心でろ	く接し、日立で促した。	一般財源	千円	1,611	2,121	2,285	1	
						1,011	2,121	2,203	-	
				特定財源(国·県·他)	千円					
				(うち受益者負担)	千円					
(つ) エモ	もに トフ か田			(4) 東紫热田太説四寸2巻	(古一)	50+H19) \c2+m; =	
(3) 冶里	かによる効果 「			(4) 事業効果を説明する数 効果指標	単位	R3	R4	R5	→ 選択して 指標の性質	
				利用時間	時間	1,560	1,802			効果が上がった
効果説明	コロ <i>ナに</i> より:	利田時間が作	低下していたが、R4年度より利用世帯及び	4.01.0.0.0.0.0.0.0.0.0.0.0.0.0.0.0.0.0.0	וחוניי	1,300	1,002	1,005	ED > CO WELLO	MAN 11 31C
(定量及び		が大幅に上がっ								
定性)	1 37 13 - 3 12373	У (ПДПСШДУ 2	37.20							
([\ 弗 =	コナナナカロロタナド	10 (白新型)	-							
	3対効果結果 とR4の一般	果(自動判定 財源増減)	貴用が増加した	※10万円以上の増減により判断				効果		
	効果が上が		1指標				効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった	
効果 (R5とR4の	効果は変わり	うない指標数	0指標		費	費用は下がった				
(R3CR40) 旨標値増減)	効果が下が	った指標数 指標全体	<u>0指標</u> 効果が上がった		用	費用の増減無し	$\overline{}$			
	ぎに向けた検 [] 5 年度の事	討	ける反省点、環境変化や関係者からの意見	 等を踏まえた検討課題、費用ネ	付効果向		課題			1
 身用増加に	こついては、シ	ルバーの作業	美単価の上昇によるものであるが、作業単価(こついては最低賃金により算出さ	されるもの	のため、やる	むを得ない。	>		
(2) 上記	己反省点及び	グ課題を踏ま	えた、令和6年度及び令和7年度の取組	取組説明						
	事業の在り	方検討 (廃止	、休止、再編成、受益者負担の見直しなど)	ガスキュロル・グリ						
			事務改善の検討							
	事業費の見			現状維持						
_			の事務改善の検討							
			伏維持又は現状の計画通り)							

17.7	OD 1/11()									
事業名	高齢者乳	1酸飲料愛	と を のひと 声事業	実施計画事業or一般事業	—f	投事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
				施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし
1. 基本情	青報			•						·
	部	健康医療部		予算中事業名		会計	一般	事業計画	単年度	繰り返し
担当組織	課	いきいき高齢	課	高齢者乳酸飲料愛のひと声	予算	款	3	新規or継続	継続	事業
	係	高齢福祉係		事業	科目	項	1	市単独or国県補助	市単独	中事業
	体系コード	331	名称	根拠法令、条例等		目	3	義務or任意	任意的	勺事業
政策体系	基本目標	3	健やかで元気に暮らせるまちづくり	 佐野市高齢者乳酸飲料愛の	事業	開始年度	和50年	実施方法	一部	委託
以外件水	政策	3	助け合い生きがいを実感できるまちづくり	ひと声事業要綱	期間	終了年度	1	事業分類	現金等約	合付事業
	施策	1	豊かで健やかな長寿社会の実現	UC户事来安侧						
2. 事業概	概要と目的及	とび(基本計	画期間内)目標値		-					

(1) 事業概要

事業概要

安否確認が必要な75歳以上でひとり暮らしの高齢者に乳酸飲料を配布。

週に1~2回訪問し、4本を本人に手渡しで配布することにより、見守り・安否確認を行う。

(2)目的 (3)目標値

目的 (本事業に よって成し 遂げたい 状態)

-人暮らしの高齢者を対象として定期的に訪問して乳酸飲料を支 給することにより、高齢者の健康保持と安否の確認を行い、安心し た在宅生活を送れるようにする。

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
利用者数	人	420	420	420	420	420
支給本数	本	85,000	85,000	85,000	85,000	85,000

3. 前年度の実績(活動及び費用対効果)説明

(1)活動実績

(2)活動を説明する数値データ及び事業費の推移

	7 5歳以上の一人暮らしで安否の確認が必要な高齢者に対し、	活動指標	単位	R3	R4	R5
		利用者数	人	413	410	377
ンズチレウン (幸		支給本数	本	84,524	84,656	79,431
(R5年度に 行った主な活		安否確認件数	件	32	57	87
		事業費計	千円	3,652	3,658	3,432
		一般財源	千円	3,652	3,658	3,432
		特定財源(国·県·他)	千円			
		(うち受益者負担)	千円			

(3)活動による効果

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び 定性)

安否確認の件数は増えているため、それだけ見守りができており、 心した在宅生活のサポートができている。

	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較	
	利用者数	人	413	410	377	値が大きいほど良い	効果が下がった	
安	支給本数	本	84,524	84,656	79,431	値が大きいほど良い	効果が下がった	

(5)費用対効果結果(自動判定)

費用(R5	とR4の一般財源増減)	費用は下がった
効果	効果が上がった指標数	0指標
	効果は変わらない指標数	0指標
(R5とR4の	効果が下がった指標数	2指標
指標値増減)	指標全体	効果が下がった

※10万円以上の増減により判断

			効果	
		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費	費用は下がった			0
	費用の増減無し			
用	費用が増加した			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

安否確認の件数は増えたが、利用者数、配布本数は令和3年度から減少傾向。

安否確認が必要な一人暮らし高齢者にサービスがしっかりいきわたる様、再度民生委員等に周知を行っていきたい。

(2)上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

□ 事業の在り方検討	「(廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど)
☑ 事業効果を上げる	ための事務改善の検討

□ 事業費の見直し検討

□ 業務時間効率化のための事務改善の検討

□ 特に検討事項無し(現状維持又は現状の計画通り)

取組説明

安否確認が必要な一人暮らし高齢者にサービスがしっかりいきわたる様、再度民生委員等に周 知を行う。